平城京東市跡推定地の調査 III

第5次発掘調査概報

昭和60年

奈良市教育委員会

序　　文

奈良市は、古代日本の都であった平城京を源流とする歴史と文化遺産に恵まれた都市であります。しかし、京域の大半は平城京廃絶以降農耕地となり往時の痕跡は永い間、地下に埋もれたままになっていました。ところが、近年の都市開発の進展に伴ない事前発掘調査をする機会も増加し、従来文献等で断片的に知られるだけにすぎなかった京内の具体的様相が次第に明らかになっております。これらの調査の大半は、いわゆる記録保存に終っているのが実情です。こうしたなかで奈良市教育委員会では、平城京の経済の中心であった東市推定地の範囲確認のための学術調査を昭和56年から継続して実施しております。今回の第５次調査は、市東辺の範囲確認と市内の様相を明らかにすることを目的としました。

調査にあたっては、土地所有者の御理解、御協力を得、また奈良国立文化財研究所、奈良県教育委員会、奈良市文化財保護審議会等の関係各位から数々の御指導をいただきましたことに対し、あつく御礼申し上げます。

昭和60年３月

奈良市教育委員会

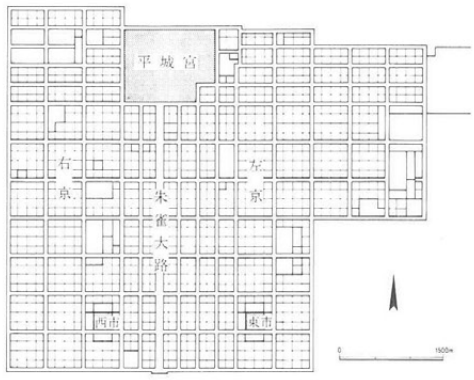
教育長 藤　井　宗　治

例　　言

1. 本書は、昭和59年度に、国庫補助事業として実施した平城京東市推定地の第５次発掘調査概要報告である。
1. 調査地は、奈良市東九条町445番地の水田で、昭和59年11月９日から同年12月26日にかけて発掘調査を実施した。
1. 発掘調査は、奈良市教育委員会社会教育部文化財課（課長　亀井伸雄）が実施し、森下恵介が担当した。
1. 発掘調査および遺物整理には、補助員として飯野公子（奈良大学卒業生）・日高しのぶ（奈良女子大学卒業生）・吉田洋恵（帝塚山大学卒業生）・服部芳人・小網豊・谷岡孝久・藤田忠彦（以上奈良大学学生）の参加があった。
1. 発掘調査にあたっては、土地所有者である村井初夫氏の御理解と御協力を得るとともに、本書の作成にあたっては、奈良国立文化財研究所・京都知恩院から写真の提供を受けた。記して感謝したい。
1. 本書の執筆、編集は、森下恵介が行った。

Ⅰ　はじめに

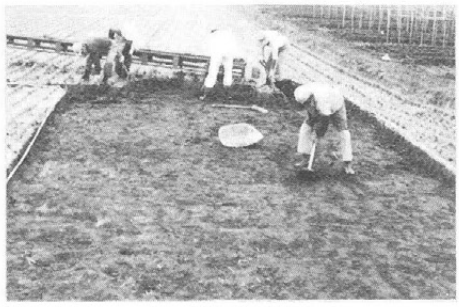
平城京東市は、右京に設けられた西市とともに官営の市場として、奈良時代における流通の中枢であったことは、よく知られている。奈良市教育委員会では、京内重要遺跡の計画的な調査として、昭和56年度より、この東市に比定される、左京八条三坊五・六・十一・十二坪の発掘調査を継続して行っている。これまでの第１次から第４次の調査は、市北辺の確認を目的として行い、その結果として、六坪と十一坪の北辺を画す築地塀、築地塀にひらく四脚門などの遺構を検出しており、この四坪域を市域とする可能性を強めている。このような点から、本年度は、市の内部とみられる十一坪内の遺構と市の東辺の確認を発掘調査の主目的におき、十一坪の東寄りに位置する水田をその調査地とした。発掘区は、この水田の北寄りに東西約50ｍ、南北約10ｍ（発掘面積510㎡）の規模で設定し、発掘調査は、昭和59年11月９日に開始し、同年12月26日に現地での日程を終了することができた。

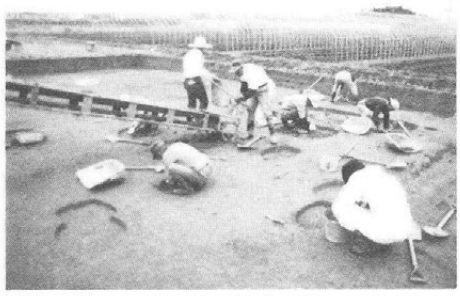


平城京東西市

第５次調査日誌抄

11月９日　発掘区設定、器材搬入
　　水田耕土、床土の排除を開始。
11月16日　発掘区東半遺構検出開始。
11月17日　発掘区西半、水田耕土、床土の排除を開始。
11月22日　発掘区西半、建物柱穴を確認。
12月１日　遺構検出終了、写真撮影を行なう。
12月３日　国土方眼座標設定
12月４日　実測用遣り方を設定開始する。
12月６日　実測図作成開始
12月12日　現地説明会
12月13日　補足調査を行なう
12月14日　砂入れ遺構養生後、埋戻し作業に入る。
12月26日　埋戻し作業終了、器材撤収


表土排除作業風景


遺構検出作業風景

II　検出遺構の概要

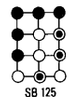
発掘区の層序は、水田耕土の下、灰色粘質砂、暗茶灰色砂、灰色粗砂、黄色粘土となっており、遺構は、灰色粗砂層および黄色粘土層上面において検出した。検出した主な奈良時代の遺構は、道路１条・溝３条・掘立柱建物９棟・土壙２箇所である。

ＳＦ010　発掘区東端で検出した坪境小路。左京八条三坊の十一坪と十四坪を画する。路面幅は4.5ｍ前後を測り、東西両側溝をもつ。

ＳＤ008　道路ＳＦ010の東側溝と考えられる南北方向の素掘り溝。今回の調査では、溝の東肩が、発掘区外となり、全幅を明らかにしえなかったが、第３次調査での検出部分では1.6ｍ～1.8ｍを測る。深さは20cm程度で、奈良時代の土器片を含む暗茶灰色粘土が堆積する。

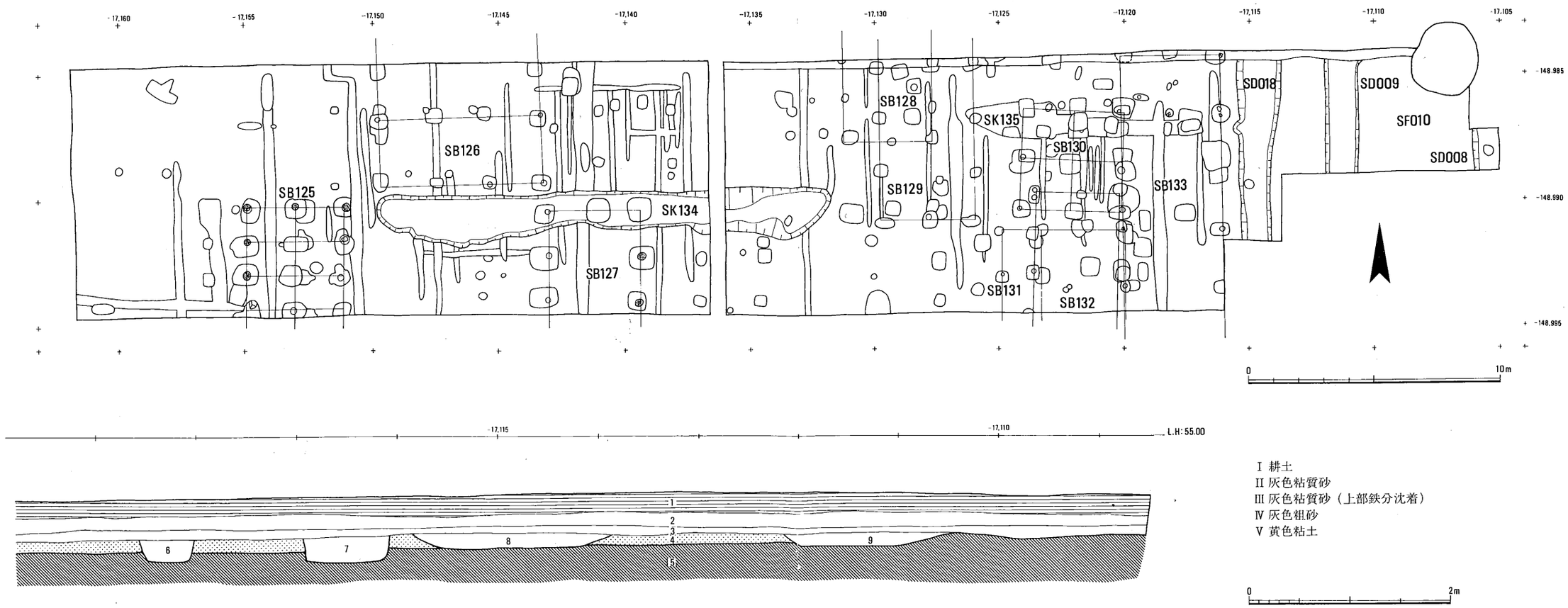
ＳＤ009　道路ＳＦ010の西側溝と考えられる南北方向の素掘り溝（幅1.5～1.8ｍ、深さ約20cm）溝内には、奈良時代の瓦片、土器片を含む、暗茶灰色粘土が堆積する。

ＳＤ018　溝ＳＤ009の西側で、これに平行する南北方向の溝（幅1.5～2.0ｍ、深さ約15cm）。第２次調査では、十一坪北辺に築地の存在が確認されており、今回の発掘区では、小路西側溝ＳＤ009と、この溝の間に十一坪の東辺を画す築地の存在を推定することが可能であるが、築地本体は削平されたためか検出できなかった。



ＳＢ125　発掘区西寄りで検出した東西２間（4.2ｍ）、南北３間(4.05ｍ)の掘立柱建物。柱間は、東西方向が2.1ｍ、南北方向が1.35ｍの等間である。５柱穴に柱根（径15～20cm）が残存する。

ＳＢ126　身舎の桁行が３間（6.3ｍ）、梁行が１間（1.8ｍ）以上の東西棟。南面に廂（2.7ｍ）をもつ。柱間は、桁行が2.1ｍの等間、梁行は1.8ｍである。



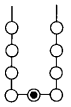
検出遺構図（１/200）・堆積土層図（１/50）

SB 127

ＳＢ127　桁行２間（3.6ｍ）以上、梁行２間（3.6ｍ）の南北棟。柱間は、桁行、梁行とも1.8ｍ等間である。２柱穴に柱根（径15cm）が残存する。ＳＢ125と北妻の柱筋を揃える。

SB 128

ＳＢ128　桁行２間（３ｍ）以上、梁行２間（3.6ｍ）の南北棟。柱間は、梁行が1.8ｍ等間であるが、桁行は不揃いで、柱穴はいずれも不整形で小さい。


SB 129

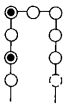
ＳＢ129　桁行３間（6.3ｍ）以上、梁行２間（3.6ｍ）の南北棟。柱間は、桁行が2.1ｍ等間、梁行が1.8ｍ等間である。

SB 130

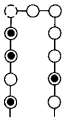
ＳＢ130　東西２間（4.2ｍ）、南北２間(4.2ｍ)の総柱建物。柱間は、東西、南北柱間とも2.1ｍ等間である。

SB 131

ＳＢ131　身舎の桁行が１間（1.8ｍ）以上、梁行が２間（3.6ｍ）の南北棟。西面に廂（1.8ｍ）をもつ。柱間は、桁行、梁行とも1.8ｍ等間である。


SB 132

ＳＢ132　桁行３間（5.4ｍ）以上、梁行２間（3.6ｍ）の南北棟。柱間は，桁行、梁行とも1.8ｍ等間。重複関係からＳＢ131よりも新しいことがわかる。


SB 133

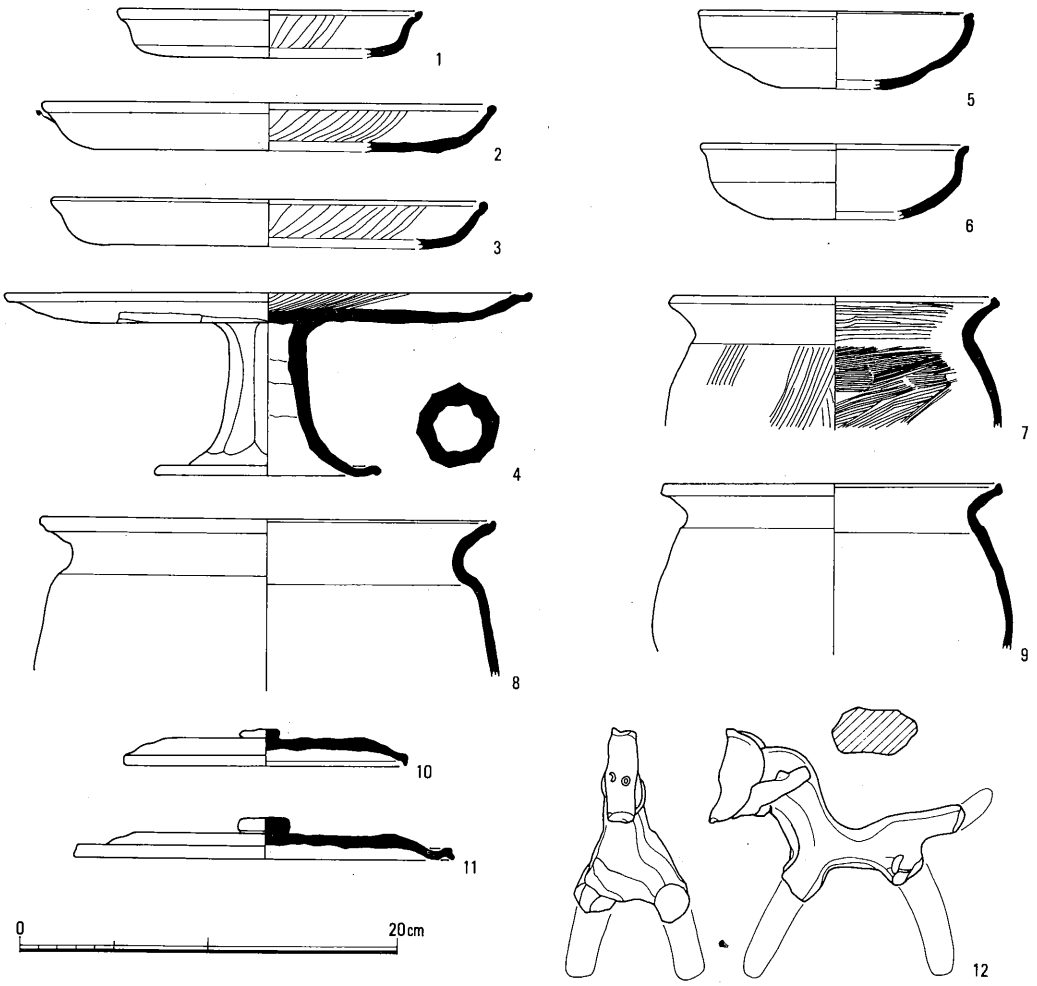
ＳＢ133　桁行４間（8.4ｍ）以上、梁行２間（3.6ｍ）の南北棟。柱間は、桁行が2.1ｍ等間、梁行が1.8ｍ等間である。重複関係から、ＳＢ130、132よりも新しいことがわかる。

ＳＫ134　幅1.3～1.8ｍ、長さ18ｍ、深さ10～20cmの溝状の土壙。重複関係から建物ＳＢ127よりも古いことがわかる。埋土は、灰色粘土で炭化物を多く含む。埋土中からは、奈良時代前半の土器類と土馬が出土した。

ＳＫ135　幅1.6ｍ、長さ3.6ｍ、深さ約10cmの土壙。建物ＳＢ129・130などよりも新しく、埋土中からは、若干の土器が出土した。

Ⅲ　出土遺物の概要

遺物は、土壙、溝、柱穴などの遺構の他、灰色粘質砂、暗茶灰色砂層などから出土した。量的には、きわめて少なく、細片が多い。瓦類はほとんどなく、軒丸瓦、軒平瓦の出土はない。土器類では、土壙ＳＫ134から出土したものが、比較的まとまりをもっている。土師器には、杯Ａ・杯Ｂ・皿Ａ（１～３）・高杯Ａ（４）・椀Ｃ（５・６）・甕（７～９）・カマドなどがある。皿Ａは、いずれも内面に放射状暗文１段をもち、外面は、口縁部のみよこなでを行うが底部には調整を行っていない。高杯Ａは、粘土紐巻き上げによって脚部をつくるもので、脚柱部はヘラ削りで10角に面取りする。杯部下面はヘラ削り、上面にラセン状と斜放射状の暗文をもつ。須恵器に

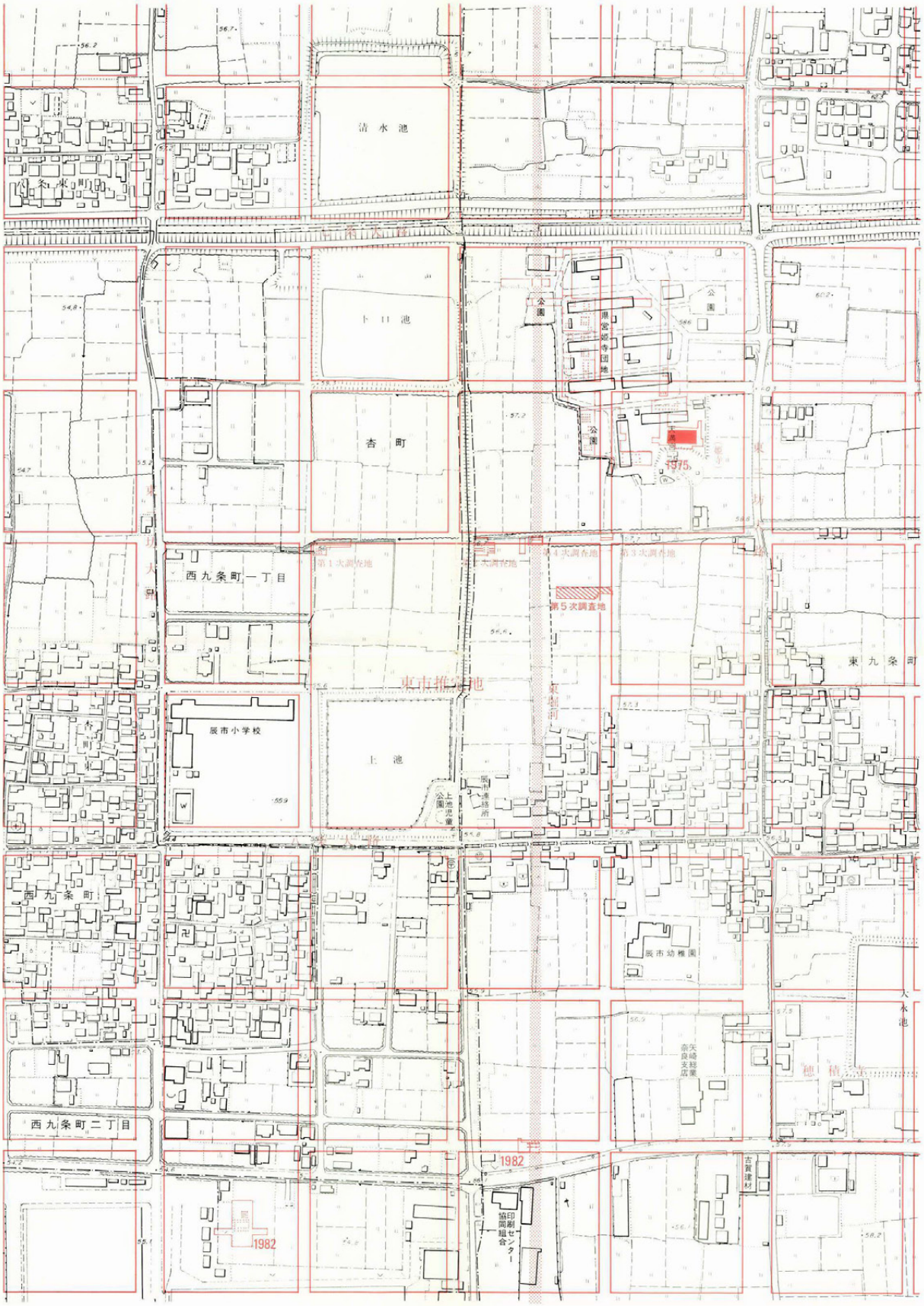


出土遺物　¼

は、杯B蓋（10・11）の他、皿B・壺A・鉢A・甕A・平瓶などがあるが、小片で図示し得ない。土馬（12）は、脚部を欠損するが、高さ13cm前後とみられるものである。

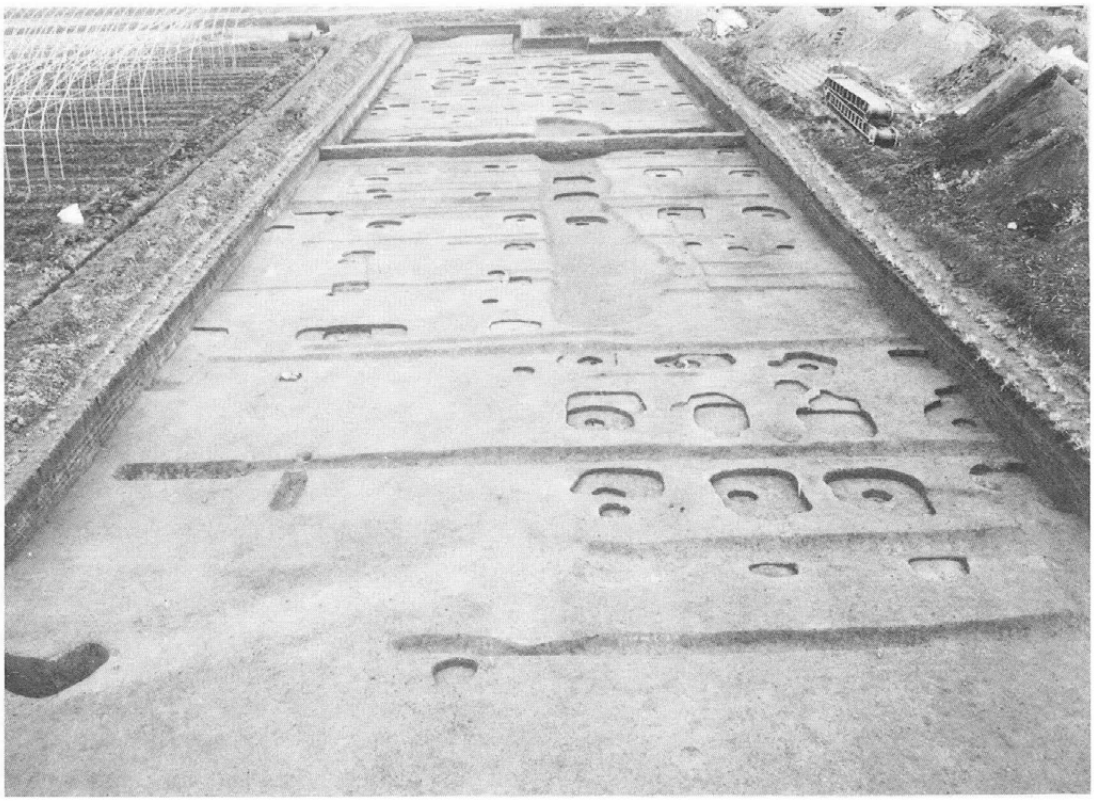
Ⅳ　ま　と　め

今回の調査では、市と推定される十一坪内部の遺構を、その一端ではあるが、初めて確認することができた。検出した建物は、重複関係から、少くとも4時期以上の建替えがある。ＳＢ125とＳＢ127など柱筋を揃え、計画的に建てられたであろう建物が存在すること、ＳＢ125やＳＢ130など倉庫と考えられる総柱建物が存在すること、南北棟が多いことなどが、注目すべき点としてあげられる。しかしながら、これらの建物を文献にいう「市廛」「肆」と直接結びつけるには問題点も多く、今後とも市の範囲や内部構造の解明に向けて調査を継続していきたい。

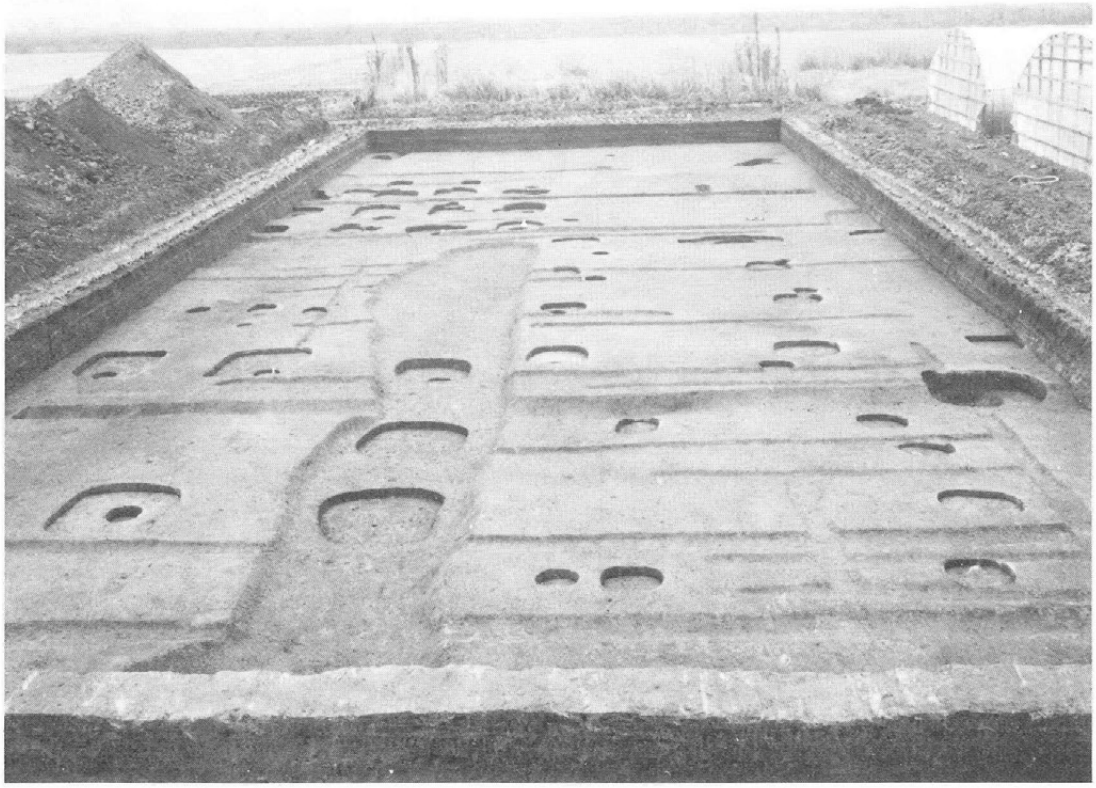

清水池
小和泉町
下口池
杏町
公園
県営城寺団地
1975
西九条町一丁目
第1次調査地
第2次調査地
第3次調査地
第4次調査地
第5次調査地
東市推定地
東九条町
辰市小学校
上池
上池児童公園
辰市連絡所
西九条町
辰市幼稚園
大水池
矢崎総業奈良支店
穂積池
西九条町二丁目
1982
印刷センター協同組合
吉賀建材

東市推定地周辺航空写真（1982年撮影）

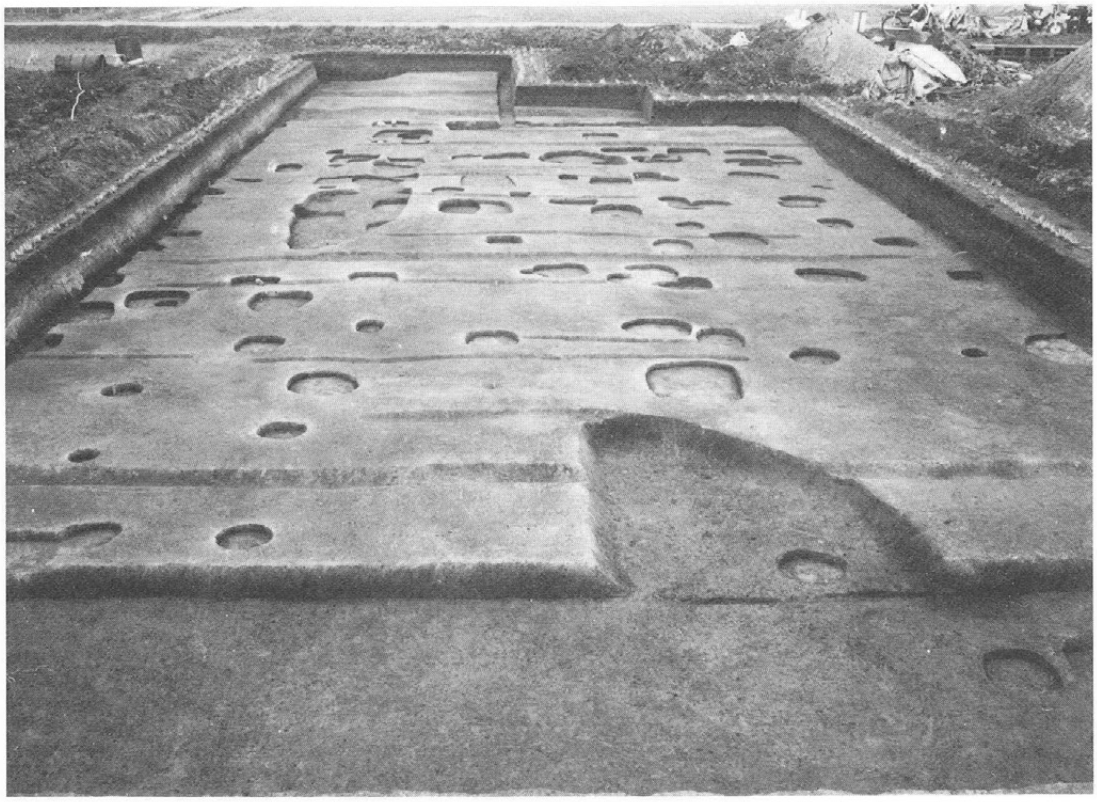
第５次調査発掘区全景（東から）



第５次調査発掘区全景（西から）



第５次調査発掘区西部分（東から）



第５次調査発掘区東部分（西から）

平城京東市跡推定地の調査 III
第5次発掘調査概報

昭和60年3月印刷・発行

編集・発行　奈良市教育委員会
（奈良市二条大路南1丁目1－1）

印　　刷　共同精版印刷株式会社
（奈良市三条大路2丁目2－6）